

「地域密着型の技術系中小企業による新製品開発の支援」プロジェクト

代表者 平田貞代【准教授】(大学院工学マネジメント研究科)

構成員 馬場良雄、稲村雄大(大学院工学マネジメント研究科)

プロジェクトの概要

日本の企業の大多数は中小企業であり、その多くは下請け作業や卸先への提供に従事している。そのため、優れた技術・技能を持ちながらも、その価値を直接利用者へ届けることが難しい。

そこで、専門職大学院における技術経営(MOT)の知識を用いて企業の強みと弱みを分析し、新製品/新サービスの開発やビジネスモデルの改良のためのデザインに、企業と大学が共同で取り組む。企業は具体的な経営課題を伝え、学生はその課題解決のためのプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトマネージャーとなり、解決をリードする役割を担う。

昨年度は、町工場とその職人技の継承、今年度は、農家とそのこだわりの食材の都市での消費をテーマとして取り組む。企業の強みを価値として最大化して利用者へ届ける方法を、企業や学生と共に実践的に検討する。

COC活動の成果

■教育

「企業経営論」(履修7名)では、企業の経営課題の実例を示し、経営者の意思決定や行動について具体的に伝えた。学生卒生は未知の経営プロセス、社会人学生は異業種について理解し、考察することができた。

「プロジェクトマネジメント」(履修14名)では、プロジェクトマネジメントに関する知識体系の国際標準であるPMBOK®に基づき、経営課題の解決のためのプロジェクトの立ち上げを想定し、各マネジメントプロセスを実践することができた。

前述の2つの授業には、科目等履修制度による学外の社会人の履修2名、および、実務家によるゲスト講演2名も含まれ、産学の知識や経験の交流のよい機会となった。各授業の履修生達は授業終了後も活動と学修を続け、基礎課題研究のテーマにも発展させることができた。

■研究

地域における自然農法などの工夫、特色ある食材や加工食品の価値を損なうことなく都市の消費者へ届けるためのビジネスモデルをテーマとし、COC活動対象科目の履修生達と共に調査を続けた。

地方の農家に滞在し実施した参与観察を通じて、自然農法の技術・技能はあるが、通常の農法に比べ手間がかかるにもかかわらず人手不足で維持が難しい(写真1)、独自の加工のアイデアはあるが商品化のノウハウと販路や卸先の情報がない(写真2)、といった課題を抽出することができた。

そこで、大学近隣で、地方・都市間の流通を担うビジネスについて調査を実施したところ、日本各地の少量生産品を集荷し都市のスーパーマーケットなどへ配分する企業があることがわかった。その集荷場へ出向き実施した現場調査では、日によって集荷や配分に大きなバラツキがあるという課題があることがわかった(写真3)。これらの課題の改善について、企業、農家、大学とで共同デザインを継続する。

■社会貢献

通常は相互理解や連携が難しい地方と都市を結び、互いの制約や工夫の共有、新たな改善方法の検討を進めることができた。大学が中心となり、地理や役割の分断を軽減し、知識交流や改善を増やす場をつくり、維持するエコシステム形成のきっかけを作ることができた。



【写真1】地方における自然農法をいかした食材作り 写真：畠撮影



【写真2】自然農法による食材の良さを知り尽くした農家による自家製の加工食品 写真：畠撮影



【写真3】地方の食材や加工食品を集荷し、都市の顧客へ直接届ける集荷場と分配のバラツキ 写真：朝比奈、畠撮影